

カットわかめを興した理研食品株式会社・理研ビタミン株式会社

名誉会長 永持 孝之進氏を悼む



理研ビタミン株式会社名誉会長 永持孝之進氏は、多くの方に惜しまれつつ長寿を全うされて平成 26 年（2014）12 月 9 日に、心不全のために 95 歳の生涯を終えられました。太平洋戦争の荒波を超え、戦後の混乱期に会社を起し食品業界を牽引して、しかも日本と中国の産業界への橋渡しをするという大きな仕事をされ、平成 17 年には旭日小綬章を受けられました。

永持名誉会長は、海藻業界の連携に精力を注がれて、東京・学士会館で開催された日本海藻協会のシンポジウムの懇親会には幾度も参加され、ご高齢にも関わらず微笑みを持って、多くの海藻業界のお知り合いの方と親しくお話をされていたお姿が思い起こされます。永持名誉会長の活動の経歴を拝見すると、日本海藻協会の懇親会に参加されて多くの参加者と懇談されたことは、海藻業界の大連合という彼の長年の構想のため、日本海藻協会へのテコ入れであったと思います。

永持名誉会長が、日中友好協会高知県支部主催として高知で最も格式高い三翠園ホテルで、県内の企業団体を対象に「中国への日本企業誘致と高知県企業について」の講演をされた時に、突然秘書方からの電話があり、「講演の前に、時間が取れるので 40 分ほど会いたい」とご連絡があり驚きました。ホテルの喫茶室でお会い出来る機会を得ました。まだ、80 歳前半のお歳であったと思いますが、いつもの微笑みを浮かべ、大きな声でお話になりました。記憶は定かでないのですが、海藻業界の異業種間を組織している日本海藻協会の活動に非常に興味があり、大いに活動を広げてほしいと激励されました。

本来は自社の「わかめ」への関わりと、中国から「わかめ」を輸入する事業をうまく進めることの努力から、だんだんと日中間の企業の交流の橋渡しをすることになり、「高知県内企業の中国進出」の手ほどきをするまでになってしまったと、微笑みなら語られました。短い時間でしたが、ご自身の経歴からビタミン事業とワカメ事業との関係とをエピソードを加えながら、講話を聴くより講談を聞くように興味深く拝聴しました。

永持名誉会長は、大正 8 年（1936）1 月 9 日に三重県でお生まれになり、理化学研究所が開発した医薬品、ビタミンを事業化する会社の理研栄養薬品株式会社が発足したことから、昭和 16 年 12 月に入社されました。しかし、その会社が倒産したため、昭和 24 年にビタミン A 部門を引き継ぎ理研ビタミン油株式会社の創立に、29 歳の若さで取締役になられてから経営的な手腕を発揮されました。昭和 41 年に代表取締役、社長となり幅広い事業を

展開されました。

昭和 39 年には、カール状に小粒に丸めた「乾燥わかめ」の特許を取得して、理研食品株式会社を創立し社長になり、昭和 49 年より 58 年まで、理研ビタミンの社長と兼任しました。

永持名誉会長の自伝「夢と志」には、平成 17 年（2005）の叙勲の根拠として、産業功労と海外での取り組みが高く評価されたと記述されております。「性行」としては、智力胆力にすぐれ、質実剛健、人格高潔、資性聡明にして、強い責任感、公平で卓越した判断力と人との協調性に配慮し、自己に対して常に厳しい人望厚い人である書かれており、彼の人柄をよく表現されていると思います。

理研ビタミン株式会社では、食用乳化剤の加工食品の応用、養殖用飼料へのビタミンの効用、水産・畜産資源へのビタミンの活用などがありますが、この分野の事業展開などは、よく知りませんので省かせていただきます。

永持名誉会長は、わかめ事業への最初の取組みとして、昭和 40 年に三陸地区で大量に生産可能となった養殖わかめを活用した新規製品として、「生わかめ・わかめちゃん」を開発・発売しました。

彼はビタミン類が水産物の配合飼料に加えられていることで水産物に興味があり、カール状の「ふえるわかめ」を知り、昭和 51 年にカール状の乾燥わかめの製法の特許登録を行うとともに、消費者ニーズにあう簡便で衛生的かつ保存性の高い「ふえるわかめちゃん」の増産システムの開発をけん引し発売へとつなげました。「ふえるわかめ」は、日本のわかめ消費の革命を起し需要を急に増大させることになりました。この功績は海藻業界では甚大であり海藻産業の歴史に残る事業変革と思います。

後に海藻サラダの開発に取り組み添加するスープの開発を行いました。スープは別売りもしました。昭和 56 年には、別売り「わかめスープ」が大ヒットとなりました。そのためにスープ製造工場を新設したほどでした。理研食品株式会社の特色は、開発研究に多くの研究員を配置しておりました。一人の研究員は南米を一人旅で海藻調査をしておりました。国際海藻シンポジウムには、毎回、研究員を派遣し外国の海藻研究者や海藻業界のスタッフとの交流をしておりました。

「わかめご飯のもと」、「おにぎりわかめ」、「花めかぶ」など、研究員、技術者が一弾となって商品化発売し、わかめ業界の中で日本を代表する大手会社に急成長しました。現在、理研食品株式会社は、下記のように三陸ワカメの主産地に近い仙台・大船渡に工場を持っております。彼は、これらの製品開発は社員の努力であると、謙虚に言われましたが、彼の独創性と社員への指導力によるものと思います。



理研食品本社工場
(宮城県多賀城市)
わかめ関連製品の製造・開発



理研食品仙台新港工場
(宮城県仙台市宮城野区)
調味料・エキス関連製造



理研食品大船渡工場
(岩手県大船渡市)
業務用冷凍海藻食品の製造



理研食品(大連)有限公司
(中華人民共和国遼寧省大連市)
中国乾燥わかめ製品の拠点工場

永持名誉会長は、関連団体の設立に対しても数多くの功績があります。わかめ産業の発展のため、生塩蔵わかめ加工製造の特許を昭和 43 年に全国漁業協同組合連合会と製造法特許の共有契約（無償で締結）し公開を図り、わかめの生産者・漁民の保護と生わかめ製品の品質管理を守ること、わかめ業界の発展に多大に貢献され、わかめの製造と需要が飛躍的に伸びることになりました。

さらに、昭和 53 年にわかめの消費拡大、生産加工の工場を図るために「日本わかめ協会」の設立に中心的役割を果たし、自ら顧問に就任しました。また、昭和 63 年には、カットわかめ業界の発展と品質の向上を図る目的で、カットわかめ製造業者の大同団結を図るため、「カットわかめ協会」を設立しました。

日本海藻協会のシンポジウム報告誌は、私が事務局を担当していた時には、「カットワカメ協会」の会員に配布するために、刊行ごとに一括購入をして下さいました。これも彼の指示とっております。さらに、平成 10 年にはわかめ・ひじき・昆布などの生産者と高齢化を憂慮し、業界発展のため後継者育成が急務との情勢に鑑み、「海藻流通研究会」の設立に尽力を尽くされました。

わかめの中国からの輸入に関しては、青島海域のわかめ養殖製品の品質が悪く、理研食品株式会社の研究員・技術者を指導派遣して品質向上を図りました。

このようなきっかけから、平成の初め頃から、日本と中国・韓国との産業提携の橋渡し役として、積極的に活動し、日本・韓国・中国わかめ協議会名誉顧問、中国・青島市の経済顧問、中国・大連市の名誉市民、中国大連市の大連水産学院、名誉教授などを歴任されました。学院長から「中国の海藻事業の発展は、永持孝之進氏の協力に負うところが多い」と感謝の辞が述べられたそうです。

このようにして、永持名誉会長は、若き日々はビタミン事業、壮年期にはわかめを核とした事業の発展に精力的に活動し、70歳代から平成時代に入っては、業界の団結と融和を求めて数多くの協会を設立し、さらに日本と中国との産業界の橋渡し役をはたされました。ここに生前のご活躍の敬意を払い、ご冥福をお祈り致します。

故永持孝之進名誉会長の資料を提供下さった理研食品(株)、佐藤純一氏に深謝致します。

(2015年1月、記)